

発達心理学

担当教員 水間 宗幸

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

この授業は、人間の生涯発達に関する心理学上の法則と問題の特徴や特性の基礎知識を理解することができる。また、胎児期、乳幼児期、児童期、思春期、青年期、成人期、高齢期の各発達段階における発達課題とその心理臨床的課題、及び人生早期の発達障害に関する基礎知識に基づき、人間の多様性を考えることができるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	発達を通じた基本的人間理解に関するガイダンス
2	発達における生物学的制約、ヒトと人
3	発達心理学の視点：獲得・消失・量・質というとらえ方の重要性
4	発達心理学の視点：一貫性と変化性
5	人間関係システムの発達：家族とアタッチメント、養護性
6	読み・書き・話すという行動の発達と発達上の課題や問題、学童期の学習障害の理解
7	他者理解と自己理解を巡って、対人関係の基礎 自閉症スペクトラムという課題
8	遊びと感性と愛他行動
9	発達における心理的事実：感覚の時代・情緒の時代・知能の時代と問題
10	発達における心理的事実：精神生活の時代と臨床的問題
11	発達における心理的事実：親密性と孤立、生殖性と停滞の時期と課題
12	発達における心理的事実：統合と絶望が課題の時期と問題
13	パーソナリティの発達 文化の中で生きるということ
14	特別な心理的支援ニーズを必要とする人たち（発達障害）への援助に関する心理学的援助の基本
15	発達研究の枠組み：時間・文脈・文化との関係で

【履修上の注意事項】

予習・復習を行うこと。特に、次回授業内容に関して必ず教科書の当該箇所を読んでおくこと。

【評価方法】

学んだことについて総合的な理解がどの程度できているか、筆記試験により評価を行う。

【テキスト】

『発達心理学への招待』 柏木・古澤・宮下著 ミネルヴァ書房

【参考文献】

講義過程でも適宜紹介の予定

教職論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

教師に求められる資質能力は、教職という仕事に対する使命感と責任感、専門的知識、児童生徒に対する教育的愛情、豊かな人間性と教養及びこれらを基盤とした実践的指導力です。本授業では教師の仕事について具体的に考えるとともに、将来、教えるを目指す学生の皆さんに教職の魅力とやり甲斐について伝えていきたいと考えています。

【授業の展開計画】

教職論は予習が必要です。またプレゼンシートを配布しますので復習も大切です。教科書の各章の終わりに問1～問3があります。レポート課題は、下の内容に書いています。レポートの書き方は1回目授業で説明します。レポートをまとめる際は、小中学校を振り返って自分の意見や考えを書いた方がいいです。書く内容が少ない場合は、教科書、他の本、インターネットで調べたことを書いてもいいですが、インターネット内容をそのままコピーして貼り付けることは、力が付かないからしないようにします。

週	授 業 の 内 容
1	教職論の授業説明
2	1章「学校を考える」(教科書1～18頁) レポート課題は問1。
3	2章「いじめについて考える」(教科書87～90頁) レポート課題は問2。
4	3章「不登校について考える」(教科書91～93頁) レポート課題は問3。
5	5章「授業を考える」(教科書62～77頁) レポート課題は問3。
6	6章「生徒指導を考える」(教科書78～93頁) レポート課題は問1。
7	7章「特別支援教育を考える」(教科書94～101頁) レポート課題は問1。
8	8章「道徳教育を考える」(教科書102～116頁) レポート課題は問1。
9	9章「特別活動を考える」(教科書117～125頁) レポート課題は問1。
10	10章「総合的な学習の時間を考える」(教科書126～140頁) レポート課題は問1。
11	11章「学級経営を考える」(教科書141～153頁) レポート課題は問1。
12	12章「学校事故を考える」(教科書154～165頁) レポート課題は問1。
13	4章「教育評価を考える」(教科書48～61頁) レポート課題は問1。
14	13章「学校・保護者・地域の連携を考える」(166～174頁) レポート課題は問2。
15	12章「危機管理を考える」(教科書157～165頁) レポート課題は問2。

【履修上の注意事項】

レポート(手書き不可)は授業当日に集める。後で出しても受け付けない(提出してないことになる)。

授業の振り返りは、各項目にきちんと回答する。授業中は、携帯をみたり他の事をしない

授業中は教室を勝手に出ない(トイレは事前に済ませておく)。

欠席の場合は、友達にレポートを預け提出を頼む。

授業中のガム・飲食は厳禁。また私語をしたり、寝ていたら、隣の人が注意をする

【評価方法】

成績評価は、レポート提出状況・内容、プレゼン内容、テスト結果を総合して判定する(追再試はしないので再履修となる)。

特にレポート提出状況・内容がよくない場合は、不可とする。

【テキスト】

川野司著『実践！学校教育入門』昭和堂

【参考文献】

教育原理

担当教員 山本 孝司

配当年次 2年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

学校の内外における「教育」という営みを歴史的、思想的観点からみることを通して教育の本質と意義について理解する。具体的には、教育の理念と制度、教育に関する歴史及び思想についての基礎的な知識を習得し、学校現場における教育実践に求められる教育の原理を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育とは何か／講義の目的・概要と進め方について
2	教育の目的と本質
3	教育と人間発達（1）発達のメカニズム
4	教育と人間発達（2）レディネスと教育
5	教育と社会／教育の理念についての理解
6	諸外国における教育の歴史と思想（1）古代の教育
7	諸外国における教育の歴史と思想（2）中世・近世の教育
8	諸外国における教育の歴史と思想（3）近代の教育
9	近代教育への批判と新教育運動の思想・実践（1）ヨーロッパ
10	近代教育への批判と新教育運動の思想・実践（2）アメリカ進歩主義教育
11	わが国における教育の歴史と思想（1）戦前
12	わが国における教育 歴史と思想（2）戦後
13	わが国における教育歴史と思想（3）今日
14	社会のなかの子どもの変化
15	今日の子どものめぐる諸問題（いじめ、不登校などをめぐる状況と学校教育の在り方）

【履修上の注意事項】

授業には参加的態度で臨むこと。
 その他、授業外でも教育にかかわる情報をキャッチする鋭敏なアンテナを持ち合わせて欲しい。
 事前にテキストを読み、事後には復習をしておくこと。

【評価方法】

原則として学期末試験（70％）、小レポート（30％）を評価の対象とする。

【テキスト】

石村華代・軽部勝一郎編著『教育の歴史と思想』ミネルヴァ書房、2013年。

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

教育行政論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 2年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

この授業は協同による能動的で活動性を高める授業であり、到達目標は、考える習慣（思考力）、コミュニケーション力、判断力と表現力、実践的指導力、人間としての生き方などを修得することをねらいとしている。また授業は3つのセクションで行う。第1セクションは発表グループによるパワーポイントを使ったReport課題の説明である。第2セクションは、Report課題（予習）についてのグループ討論（話し合い学習）を行う。第3セクションは、授業の振り返りである。まとめのプレゼンシートを配布しますので復習も必要です。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育行政論へのいざない
2	協同学習についての説明
3	LTD学習を考える「主体的に学ぶ授業のすすめ」
4	1章「教育行政と教育行政学」教科書7～13頁3行目
5	2章「教育行政を動かす組織」17～24頁
6	3章「教育を受ける権利の保障」31～40頁1行目
7	3章「教育を受ける権利の保障」40頁2行～46頁
8	4章「学校の管理と経営」47～54頁
9	4章「開かれた学校づくり」55～62頁
10	7章「教育活動を支える諸条件」91～96頁
11	7章「教育活動を支える諸条件」97～101頁8行目
12	9章「教職員の養成・採用・研修と身分保障」119～125頁
13	9章「教員の採用選考・研修・身分保障等」125～132頁
14	10章「教育課程行政と教科書」1と2節
15	10章「教育課程行政と教科書」3と4節

【履修上の注意事項】

レポート（手書き不可）は授業当日に集める。後で出しても受け付けない（提出してないことになる）。

授業の振り返りは、各項目にきちんと回答する。授業中は、携帯をみたり他の事をしない

授業中は教室を勝手に出ない（トイレは事前に済ませておく）。

欠席の場合は、友達にレポートを預け提出を頼む。

授業中のガム・飲食は厳禁。また私語をしたり、寝ていたら、隣の人が注意をする

【評価方法】

成績評価は、レポート提出状況・内容、プレゼン内容、テスト結果を総合して判定する（追再試はしないので再履修となる）。

レポート提出状況・内容がよくない場合は、不可とする。

【テキスト】

勝野正章・藤本典裕編「教育行政学（改定版）」学文社

【参考文献】

教育課程論

担当教員 山本 孝司

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①教育課程の意義とわが国における歴史的変遷について説明することができる。
- ②今次の学習指導要領の特徴を横軸（諸外国との比較）と縦軸（歴史的変遷）により説明することができる。
- ③学習指導案を作成することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育課程とは：教育課程の意義
2	教育の目的と教育課程の編成原理
3	教育課程の歴史的展開と教育方法
4	日本における教育課程の歩み：戦前
5	日本における教育課程の歩み：戦後
6	教育課程の法と行政（教育課程の三層構造）
7	学習指導要領の特徴と変遷（1）経験主義から系統主義、教育の現代化
8	学習指導要領の特徴と変遷（2）「ゆとり教育」と新学力観、「脱ゆとり教育」
9	教育課程の構造と類型
10	諸外国の教育課程（アメリカ、イギリス、フィンランド）
11	小・中・高等学校における教育課程
12	授業計画（学習指導案）の作成
13	授業計画（学習指導案）の発表と相互検討
14	教育課程の経営と評価
15	今日の教育課題と教育課程：「学力」をどう捉えるか

【履修上の注意事項】

上記の計画は、受講者の数及びニーズに応じて一部変更する場合があります。事前にテキストを読み、事後には復習をしておくこと。

【評価方法】

期末試験70%＋リフレクションペーパー30%を原則とし、総合的に評価する。

【テキスト】

広岡義之編著『はじめての教育課程論』ミネルヴァ書房、2016年

【参考文献】

『学習指導要領』

道徳教育論

担当教員 山本 孝司

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

道徳教育の本質および歴史を踏まえ今日の学校および社会における道徳教育のあり方を理解した上で、「道徳」授業者としての実践的力をもつことができるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	現代社会と道徳
2	道徳教育の本質
3	慣習的道徳と反省道徳
4	道徳を教えるということ
5	道徳性 1 (道徳教育の原則からみた道徳性)
6	道徳性 2 (コールバーグの道徳性発達理論)
7	日本における道徳教育の史的展開
8	学校における道徳教育の現状 (新基本法と学習指導要領)
9	道徳教育のための授業論 (道徳教育における「道徳」授業の位置づけ)
10	道徳教育のための教材論 (教材「手品師」に対する批評)
11	徳目主義の問題点
12	道徳授業の指導計画
13	道徳授業の実践と評価
14	道徳授業例
15	道徳教育に関する今後の課題

【履修上の注意事項】

授業内ではディスカッション・ディベート等、話し合い活動を取り入れることが多い。
 参加的態度で臨むこと。
 教育界における「常識」をラディカルな次元に立ち返り疑ってみる鋭敏なセンスを養って欲しい。
 事前に配布資料を読み、事後には復習をしておくこと。

【評価方法】

原則として学期末試験 (70%)、小レポート (30%) を評価の対象とする。

【テキスト】

『中学校学習指導要領解説―道徳編―』／文部科学省
 『小学校学習指導要領解説―道徳編―』／文部科学省

【参考文献】

『「道徳」授業に何が出来るか』／宇佐美寛／明治図書

特別活動論

担当教員 山本 孝司

配当年次 1年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

小中高等学校の学習指導要領を中心に特別活動の歴史の変遷をたどり、教育課程上の位置づけを理解できる。そのうえで特別活動の目標と内容、実践上の諸課題について論じることができるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	学校教育と特別活動Ⅰ—教育課程における位置づけ
2	学校教育と特別活動Ⅱ—特別活動の基本的性格
3	特別活動の歴史Ⅰ—戦前における課外活動
4	特別活動の歴史Ⅱ—学習指導要領にみる戦後の変遷
5	学習指導要領における特別活動の目標と内容Ⅰ—目標の分析・考察
6	学習指導要領における特別活動の目標と内容Ⅱ—学級活動の特質と活動内容
7	学習指導要領における特別活動の目標と内容Ⅲ—児童会・生徒会活動の特質と活動内容
8	学習指導要領における特別活動の目標と内容Ⅳ—学校行事の特質と活動内容
9	特別活動の展開Ⅰ—学校経営案、特別活動計画案、学級活動計画案の検討
10	特別活動の展開Ⅱ—学級活動学習指導案の作成
11	特別活動の展開Ⅲ—学級活動学習指導案の作成及び検討
12	特別活動の展開Ⅳ—児童会・生徒会活動の事例検討
13	特別活動の展開Ⅴ—学校行事の事例検討
14	特別活動と他の教育活動との関連
15	特別活動の実践

【履修上の注意事項】

学級活動、児童会・生徒会活動、学校行事等の特質や内容について実践事例や受講生の経験等も活用しながらより具体的な講義を展開していきたい。
事前にテキストを読み、事後には復習をしておくこと。

【評価方法】

レポート40%、期末試験60%

【テキスト】

広岡義之編著『新しい特別活動—理論と実践』ミネルヴァ書房、2015年

【参考文献】

教育方法論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業は協同による能動的で活動性を高める授業であり、到達目標は、考える習慣（思考力）、コミュニケーション力、判断力と表現力、実践的指導力、人間としての生き方などを修得することをねらいとしている。授業前半は、発表グループによるパワーポイントを使ったReport課題の説明とテーマのグループ討論（Report課題）を行う。授業後半は、質問を投げかけるなど双方向型の講義形式で行う。

【授業の展開計画】

教育方法論は予習が必要です。プレゼンシートを配布するので復習も必要です。教科書には設問3つと考えてみようの間がいくつかあります。その回答をレポートにまとめて授業に臨みます。レポートの書き方は1回目授業で説明します。レポートをまとめる際は、小中学校を振り返って自分の意見や考えを書いた方がいいです。書く内容が少ない場合は、教科書、他の本、インターネットで調べたことを書いてもいいですが、インターネット内容をコピーして貼り付けることはしない。

週	授 業 の 内 容
1	教育方法論へのいざない
2	「いじめについて考える」（教科書212～216頁）
3	「学校事故を考える」（教科書87～94頁）
4	「学校給食について考える」（教科書208～211頁）
5	「学級担任になったA先生の不安」（教科書34～41頁）
6	「担任と児童との関係を考える」（教科書58～68頁）
7	「不登校を考える」（教科書95～103頁）
8	指導案作成の説明（別紙プリント）
9	指導案作成の実践（発表グループで作成する）
10	指導案の発表（各グループで作成した指導案を発表する）
11	「学級活動と道徳の違い」（教科書120～124頁）
12	「道徳教育と道徳の時間の違い」（教科書150～155頁）
13	「生徒指導を考える」（教科書175～180頁）
14	「体罰を考える」（教科書193～198頁）
15	「授業中の規律指導」（教科書217～221頁）

【履修上の注意事項】

出席確認で携帯を忘れた人は、川野に連絡する。レポートは授業当日に集める。後で出しても受け付けない。授業アンケートは、各項目にきちんと回答する。

授業中は、携帯をみたり他の事をしない。授業中は教室を勝手に出ない（トイレは事前に済ませておく）。欠席の場合は、友達にレポートを預けて当日に提出を頼むか、事前に川野に提出する。授業中のガム・飲食は厳禁。また私語をしたり、寝ていたら、隣の人が注意をする。

【評価方法】

成績評価は、レポート提出状況・内容、プレゼン内容、テスト結果を総合して判定する（追再試はしないので再履修となる）。

レポート提出状況・内容がよくない場合は、不可とする。

【テキスト】

「教師のためのケースメソッドで学ぶ実践力」昭和堂

【参考文献】

看護科教育法 I

担当教員 柴田 恵子

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 「看護」に興味を持ち、主体的な学習を継続できるようになるための教授 - 学習過程を考える。
2. 看護者・教育者としての資質を高めるために必要な自己の課題を明らかにする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、看護教育学とは
2	看護教育制度の特徴
3	看護教育制度の変遷
4	看護基礎教育課程の種類とその変遷
5	看護基礎教育課程における目的・目標の設定
6	看護基礎教育課程における内容の選定と評価
7	看護教育学の制度
8	小テスト、学習報告会：課題学習の成果発表
9	授業展開の基礎
10	授業展開の実際
11	授業展開の方法と授業評価
12	看護教育の実際：体験報告会
13	教育実習の実際：VTR視聴、学習指導要領
14	高等学校学習指導要領：看護
15	まとめ：看護基礎教育の課題と展望

【履修上の注意事項】

講義のほかにそれぞれが課題をもって取り組む課題学習、グループ学習・発表を行い、教育者として必要な能力について学ぶ。第1回目のオリエンテーション時に授業計画を発表するので、必要な学習は事前に各自が行なってくる。課題の提出は予習でもあるので、必ず課題レポートを作成すること。また必要に応じてレポート提出を復習として課すことがある。

【評価方法】

筆記試験：60%、学習態度・状況(小テスト、レポート提出、グループ活動の参加と発表)：40%

【テキスト】

『看護教育学 第4版』杉森みど里・舟島なをみ（医学書院）、『高等学校学習指導要領解説 看護編』

【参考文献】

必要に応じて指示し、紹介する。

看護科教育法Ⅱ

担当教員 柴田 恵子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 「看護」を理解するために必要となる教育方法を考える。
2. 学習者が学習意欲をもてるような教育のあり方を考える。
3. 高等学校における看護教育の意義、発達段階に適した教育とあり方を理解し、実践できる能力を養う。
4. 看護者・教育者としての資質を高めるために必要な自己の課題を明らかにする。

【授業の展開計画】

看護科教育法Ⅱは、看護科教育法Ⅰで学習したことを基に、さらに実践的教育のあり方について学習する。

週	授 業 の 内 容
1	高等学校における看護教育の実際
2	高等学校における教育計画と実施：教育組織と運営
3	高等学校における教育計画と実施：看護師養成教育の変遷
4	高等学校における教育計画と実施：継続教育の意義
5	グループごとの演習：模擬授業の計画
6	グループごとの演習1：模擬授業実施（発表）・評価
7	グループごとの演習2：模擬授業実施（発表）・評価
8	演習：模擬授業の計画
9	演習1：模擬授業の計画・実施（発表）・評価
10	演習2：模擬授業の計画・実施（発表）・評価
11	8-10回目の経験及び模擬授業の評価をもとにした模擬授業の修正
12	修正した模擬授業の実施（発表）・評価
13	グループワーク：看護臨床実習指導の実際
14	発表と意見交換：看護臨床実習指導の実際
15	まとめ：高等学校における看護教育の展望

【履修上の注意事項】

看護科教育法Ⅰを履修済みであること。看護科教育法Ⅰの履修を基にした授業展開を行なう。第1回目のオリエンテーション時に授業計画を発表するので、必要な学習は事前に各自が行なってくる。授業では前回の復習を行い、本時の内容と継続させながら学習をする。課題の提出は予習でもあるので、必ず課題レポートを作成すること。

【評価方法】

定期試験（筆記）：70%、学習態度（レポート提出状況、レポート内容、グループ討議時の発言状況）：30%

【テキスト】

第1学期に購入したテキストを引き続き使用する。『看護教育学 第5版』杉森みど里・舟島なをみ（医学書院）、『高等学校学習指導要領解説 看護編』

【参考文献】

必要に応じて指示し、紹介する。

生徒指導論

担当教員 山本 孝司

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 養護教諭一種免許状の取得を希望する者は履修すること。

【授業のねらい】

人格形成の視点から、生徒指導に関する基本的理念を学び、今日の生徒指導上の課題に対応するための実践的な考え方をもちることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	生徒指導とは
2	生徒指導の今日的な意義と課題
3	機能概念としての生徒指導
4	生徒指導の歴史的変遷
5	生徒指導の実際 ①非行・問題行動
6	生徒指導の実際 ②いじめ・不登校
7	生徒理解のための方法と技術
8	生徒指導における学級経営および地域や家庭との連携
9	懲戒と体罰
10	校則について
11	進路指導・キャリア教育
12	教育課程と生徒指導 ①各教科と生徒指導
13	教育課程と生徒指導 ②道徳と生徒指導
14	教育課程と生徒指導 ③特別活動と生徒指導
15	コミュニケーションと生徒指導—子どもの自己肯定感を高めるために

【履修上の注意事項】

授業内に課される活動には、積極的に参加をすること。
事前にテキストを読み、事後には復習をしておくこと。

【評価方法】

原則として学期末試験（60％）、小レポート（40％）を評価の対象とする。

【テキスト】

広岡義之編著『教育実践に役立つ生徒指導・進路指導論 - 「生徒指導提要」に触れつつ』あいり出版

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

生徒指導・進路指導論

担当教員 山本 孝司

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 高等学校教諭一種免許状の取得を希望する者は履修すること。

【授業のねらい】

「生徒指導」の基本的理念、原理原則を学び、今日山積する生徒指導上の課題に対処できる実践的能力の基礎となる教師としてのものの見方、考え方ができるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	生徒指導の今日的な意義と課題
2	機能概念としての生徒指導
3	生徒指導の歴史的変遷
4	生徒指導の実際 ①非行・問題行動
5	生徒指導の実際 ②いじめ・不登校
6	生徒理解のための方法と技術
7	生徒指導における学級経営および地域や家庭との連携
8	教育課程と生徒指導 ①各教科と生徒指導
9	教育課程と生徒指導 ②道徳と生徒指導
10	教育課程と生徒指導 ③特別活動と生徒指導
11	進路指導の定義と論点
12	学校における進路指導の新たな展開
13	進路指導の内容と計画
14	キャリア教育と生徒指導・進路指導
15	コミュニケーションと生徒指導—子どもの自己肯定感を高めるために

【履修上の注意事項】

授業へは参加的態度で臨むこと。
事前にテキストを読み、事後はテキスト、配布資料を読み返しておくこと。

【評価方法】

課題レポート（40%）＋学期末試験（60%）

【テキスト】

広岡義之編著『教育実践に役立つ生徒指導・進路指導論 - 「生徒指導提要」に触れつつ』あいり出版

【参考文献】

授業内で適宜紹介する。

教育相談（カウンセリングを含む）

担当教員 古賀 由紀子、三津家 律子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

教育相談とは、一人一人の子どもの教育上の諸問題について本人または、保護者、教師などにその望ましい在り方について指導助言することを意味しているが、特に学校生活において不適応を訴える児童生徒、保護者に対して主として個別援助するとき、これらの悩みや問題行動に対してどのように理解し、具体的に対応していったらよいか説明できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育相談の考え方・教育相談の位置づけ、生徒指導と教育相談（古賀）
2	児童生徒理解の基礎—一般的理解（発育発達、疾病、問題行動等）（古賀）
3	児童生徒理解の基礎—個別的な理解（古賀）
4	カウンセリングの意義（三津家）
5	カウンセリングの理論（三津家）
6	カウンセリングの技術（三津家）
7	問題行動の理解（三津家）
8	学校でできる遊戯療法（三津家）
9	学校でできる認知行動療法（三津家）
10	発達促進的教育相談（三津家）
11	教育相談の事例研究、支援会議（三津家）
12	家族への援助、教師へのコンサルテーション（三津家）
13	教育相談の担い手（学級担任、教育相談担当者、養護教諭、スクールカウンセラー他）（古賀）
14	教育相談の機関と援助事業（古賀）
15	支援的ネットワーク、教育相談の課題（古賀）

【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておくこと。
授業の最後に振り返りのための課題を提示するので、それをふまえて振り返りまとめておく。授業の最初に前回のまとめを提出する。

【評価方法】

レポート等20%、試験80%により評価する

【テキスト】

テキストは特になし。 随時プリントを配布する。

【参考文献】

「学校カウンセリング」 国分康孝編 日本評論社

教職実践演習（高）

担当教員 新任教員、柴田 恵子、山下 忍、古賀 由紀子、山本 孝司、吉岡 久美、水間 宗幸、古江 佳織、新 裕紀子

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

使命感や責任感に裏打ちされた教員としての確かな実践的指導力を身につける。
具体的には次の四つの事項（①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児・児童・生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項）に関する知識・技術を修得し、それに基づいた実践が行えるようになる。

【授業の展開計画】

- I 教師に関する研究(教育実習自己評価用紙を基に自己省察を行う)
自己省察(教育実習自己評価用紙を基に)
- II 学校教育におけるエコロジカルアプローチ(事例研究や対人援助技術を学び最新の子どもの発達に関する理解を深める)
 - (1)事例研究(保護者地域社会との連携・協働について)
 - (2)学校に関連した対人援助技術を学ぶ(保護者との関係性の構築の仕方等に関するロールプレイングを含む)
 - (3)最近の知見に基づく子どもの発達に関する理解を深める。
- III 授業研究(実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究を行う)
 - (1)実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究(その1)
 - (2)実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究(その2)
 - (3)実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究(その3)
- IV 生徒指導(生徒指導の在り方及び不登校といじめ問題・ロールプレイングを含めた事例研究を行う)
 - (1)生徒指導の在り方について(「生徒指導上の諸問題の現状について」)を基に
 - (2)事例研究(不登校といじめ問題等)
 - (3)事例研究(ロールプレイング含む)
- V 児童・生徒理解(玉名市内のスクールボランティア協力校・学校支援・市内協力高校でのフィールド学習を実施する)
 - (1)スクールボランティアを活用したフィールド学習
 - (2)スクールボランティアを活用したフィールド学習
 - (3)スクールボランティアを活用したフィールド学習
 - (4)フィールド学習の振り返りと評価

VI 総括

【履修上の注意事項】

事前準備、事後の復習に関しては担当者の指示に従うこと。

【評価方法】

①授業態度（30%）、②ポートフォリオを通しての評価（50%）、外部講師による評価（20%）

【テキスト】**【参考文献】**

教職実践演習（養護教諭）

担当教員 新任教員、柴田 恵子、山下 忍、古賀 由紀子、山本 孝司、吉岡 久美、水間 宗幸、古江 佳織、新 裕紀子

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

使命感や責任感に裏打ちされた教員としての確かな実践的指導力が身についているかどうかの確認を行い、①自らの養護教諭としての実践実習を評価しまとめることができる。
②自らの能力・適性（資質）について、自ら描く養護教諭像と照らし合わせて研鑽すべき課題を述べるができる。

【授業の展開計画】

養護実習の学びを振り返り学校運営についての理解を確認するとともに、学校フィールドで再度児童生徒の理解を深める。学校保健を構成する保健教育・保健管理について、集団指導としての模擬授業、個別指導としての場面指導等の演習を通して実践的指導力を確認する。また課題解決のために組織活動をどのように行っていったらよいかを考える。具体的には下記授業計画のとおり。

I 「教師」に関する研究

自己省察（養護実習自己評価紙を基に）（実習担当者）

II 学校教育におけるエコロジカルアプローチ

(1) 事例研究（保護者・地域社会との連携・協働について）

(2) 学校に関連した対人援助技術を学ぶ（保護者との関係性の構築の仕方等に関するロールプレイングを含む）

(3) 最近の知見に基づく子どもの発達に関する理解を深める。LD、ADHDをはじめとする特別支援教育に関する実践の基盤

III 授業研究

模擬授業または現場での授業実施と現職教諭を交えての授業研究会(その1)～(その3)

IV 健康問題への解決支援

個別指導の場面指導(疾病の場面指導)

個別指導の場面指導(生徒指導の場面指導：性の問題)

個別指導の場面指導(健康相談)

V 児童生徒理解

(1) スクールボランティアを活用したフィールド学習 (1)～(3)

(4) フィールド学習の振り返りと評価

【履修上の注意事項】

これまでの教職に関する学習の総まとめの意味があるので、毎回関連する既習科目を復習し演習に臨むこと。授業後は、行った演習を振り返り記録しポートフォリオを作成すること。

【評価方法】

講義についてのレポート、演習後の記録、グループワークでの活動、振り返りでの討論等を総合して評価する。

【テキスト】

新しく購入するものは特になし。これまで使った教科書や資料を利用する。

【参考文献】

教育実習（事前事後指導を含む）

担当教員 新任教員、柴田 恵子、山下 忍、古賀 由紀子、山本 孝司、吉岡 久美、水間 宗幸、古江 佳織、新 裕紀子

配当年次 4年

開講時期 1・2学期

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 3

準備事項

備考

【授業のねらい】

本学における教職課程で学んだ理論をもとに、学校現場における教育の実践的経験を通して、高校教諭に必要な資質や専門性、実践的指導力をもつことができる。

【授業の展開計画】

1. 事前指導（3年次～4年次実習前）

教育実習の意義・心得、実習の内容や過程の理解、教育現場の事前理解、指導案の作成、実習に必要な知識・技術・技能の獲得、及び実習校の確定とその手続き、実習校との打ち合わせにかかわる実際的な指導

2. 教育実習（4年次、2週間）

実習校の指導のもとで実習を行う

3. 事後指導（4年次、実習後）

実習に関する反省と指導一体験内容の相互共有により実習経験の充実・深化をはかる。また終了レポートの作成、自己評価、体験発表、討論会等を行う。

*なお、事前事後指導については、別途指導計画表を配布する。とくに3年次は専門の実習の関係で、事前指導の日程は、変則的に組まれるので注意すること。初回のガイダンスで詳細に説明する。

【履修上の注意事項】

高校教諭1種免許状の取得希望者のみ。履修に当たっては教職課程履修細則が適用されるので、よく確認すること。
事前準備、事後の復習については担当者の指示に従うこと。

【評価方法】

実習校による評価（60%）、実習録・実習終了レポートによる評価（10%）、事前事後指導における平常の評価（授業態度等）（10%）、事前事後指導におけるレポート等による評価（20%）。
なお、事前事後指導、本実習のすべてにおいて、無断欠席は認められないので厳重に慎むこと。

【テキスト】

特に使用しない。資料を配布する。

【参考文献】

適宜紹介する。

養護実習（事前事後指導を含む）

担当教員 新任教員、柴田 恵子、山下 忍、古賀 由紀子、山本 孝司、吉岡 久美、水間 宗幸、古江 佳織、新 裕紀子

配当年次 4年

開講時期 1・2学期

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 5

準備事項

備考

【授業のねらい】

①保健室のあり方及び養護教諭の果たすべき役割と「養護」の対象である児童生徒の心身、生活の状況、健康問題について実習校の実態に基づいて述べるができる。②保健室に来室する児童生徒に対応する中で、健康問題の発見・把握、健康問題の解決、予防のための指導などを適切に行うことができる。③自らが養護教諭になった時の姿（養護教諭像）を描くことができる。

【授業の展開計画】

1. 15日間の実習を行うものとする
2. 実習の全期間を通じて学校教育の目的と、それを実現するための教育計画、教育課程、その他の日常教育活動及び、学校運営機構とその機能について理解を深めるとともに、学校教育のあらゆる場における養護教諭の活動について必要な事項を習得する。
3. 実習校における実習は、主に「講義」「観察」「参加」「実習」という方法で行われる。

【履修上の注意事項】

- ・実習に当たっては1単位の事前事後指導を受けること
- ・履修に当たっては教職課程履修細則が適用されるのでよく確認をすること
- ・実習校の計画に基づき実習を行なうこと
- ・実習の事前学習を行うこと（学校組織、子どもの発育・発達、養護活動など）また、実習後には振り返りレポートを書くこと。

【評価方法】

実習校における評価（70%）、実習録・実習終了レポートによる評価（10%）、事前事後指導における平常の評価（態度、意欲、授業参加等）、事前事後指導におけるレポートによる評価（20%）
なお、事前事後指導、本実習のすべてにおいて、無断欠席は認められない。

【テキスト】

養護実習の手引き及び配布資料

【参考文献】

適宜紹介する